

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4677600092
法人名	社会福祉法人 幸伸会
事業所名	グループホーム 青山荘
訪問調査日	平成20年1月16日
評価確定日	平成20年2月15日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4677600092
法人名	社会福祉法人 幸伸会
事業所名	グループホーム 青山荘
所在地	鹿児島県肝属郡錦江町城元3724-1 (電話) 0994-22-3389
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成20年1月16日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 3月 20日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 常勤 7人, 非常勤 0人, 常勤換算 7.0人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	平屋 建て

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

(4)利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 88.1歳	最低	81歳	最高	97歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大根占医院、肝属郡医師会立病院、岩城歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>空気の澄んだ自然豊かな山間で、桜の木に囲まれて季節の移り変わりを肌で感じられる場所に建てられたホームである。周囲は民家が少ないため、自らが地域に向かう機会を多く持ったり、併設の特別養護老人ホームの来訪者に声をかけたりして地域との交流を図っている。ご家族との連携も充実しており、家族会開催や「キャプション評価」を取り入れて、ご家族からの意見を聴取している。職員にとっては、研修受講の機会が多く、働きながら学習できる環境が整っている。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回は特に指摘事項はなかったが、ご家族との話し合いのもと、居室環境の充実に取り組まれている。</p>
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	<p>職員は管理者より評価の意義について説明を受け、理解した上で自己評価に積極的に取り組んでいる。自己評価をもとに認知症ケアと高齢者の生活を見直す機会とし、関連する研修への参加につなげている。</p>
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>ホームでの活動状況の報告や今後計画されている行事等が会議内容の中心となり、様々な立場の方より意見を聴取している。出された意見については、職員間でどのように活かすか話し合われ、サービスの向上に取り組まれている。</p>
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<p>定期的な家族会の開催やアンケートの実施、さらには「キャプション評価」を取り入れ、ご家族からの要望や意見を吸い上げ、運営に反映させている。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>立地条件により、地域住民が気軽に訪れる環境にないため、ホーム側より地域住民との交流のための外出機会を設けたり、併設の施設を訪れた方との交流機会も積極的につくるよう取り組まれている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームで生活していても、自宅や地域で暮らすことと変わらない「普通の暮らし」ができるように支えることを念頭においている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者の「今の声」を捉えて、その方々にとっての「普通の暮らし」を実践できるよう、職員一丸となって取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町の文化祭への作品の出品や入居者の住んでいた校区の運動会への参加、隣接の老人ホームへ寄せられた地域住民の方々との交流等、積極的に出向くように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者より評価の意義についての説明を行った後、全職員で自己評価に取り組んでいる。評価を活かすために、認知症への更なる理解を深めるべく、勉強会や外部研修へ参加している。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの活動状況の報告や今後の予定等が報告され、様々な立場から意見を聴取している。会議の中で出された意見を参考にして、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者とは、入居者の動向等の報告やホーム行事への参加を呼びかけている。本年より「地域ケア会議」が発足しており、更なる連携機会の増加に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや健康状態については、面会時に毎回報告され、毎月「たより」も送付されている。金銭管理については、出納帳を作成し、領収書とともに毎月報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設置しており、定期的な家族会開催時に意見の聴取、アンケートを実施している。また、「キャプション評価」という手法を使い、ご家族からの提案が運営に反映されるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃より隣接の老人ホームとも往來を繰り返すことで、職員とも馴染みの関係をつくり、異動があった場合でも十分な引き継ぎ期間を設けて、入居者へのダメージを少なくするよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での勉強会をはじめ、法人全体での研修会や外部研修会へも積極的に参加しており、勤務しながらも学習の機会が常に設けられている。各人の段階に応じた研修計画は、今のところ策定されていない。	○	本年、各職員毎に面談の上で、経験年数や習熟度に合わせた研修計画を策定する予定である。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会へ入会し、研修会等へ参加したり、法人内の他のグループホームとの相互訪問の機会を設けている。	○	今後、地域のグループホームの間でも、相互訪問や学習の機会を持ち、サービスの質の向上に取り組むことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際しては事前に面談を行い、十分に情報収集して、ホームの暮らしを説明した上で入居に至る。入居後も、ご家族やこれまで関わってこられた方々の協力を得ながら対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者の持っている知恵や力に対して学ぶ姿勢で向かい合い、生活の中で喜怒哀楽をともにすることで、支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から思いや意向を引き出すために「気づきノート」や「暮らしノート」等を作成・記録しながら、入居者の思いのサインについて検証している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者やご家族から希望や意見を聴取し、さらに職員からの意見も取り入れた介護計画を作成の上で、サービス担当者会議を開催して、内容の修正・共有を図っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の期間によって定期的な見直しを行うとともに、入居者の状態変化や職員の気づきにより変更が必要な場合、随時新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族の状況に応じて通院支援等を行い、ホーム単独で対応できない場合には、法人職員の支援を得ながら柔軟な対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、ご家族が望むかかりつけ医への通院が可能となるように支援されている。入居者それぞれのかかりつけ医とも報告・連絡を密に行い、適切な医療が受けられるように取り組まれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期をどうするかアンケートを聴取し、入居後も定期的に意思を再確認するようにしている。入居者やご家族の意向にできるだけ沿えるように、必要に応じてかかりつけ医との連携も図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員全体で、入居者の自尊心に配慮した声かけや態度を心がけている。また、記録物の記載・表現・掲載方法については必ず管理者が確認するなどして、厳格な取り扱いがなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームで決めたスケジュールは最小限にして、できるだけ入居者のペースで、希望にそった行動計画を立てるように心がけている。外出先や買い物等についても、入居者の意向を尋ねた上で対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が、同じ場所で同じものを同じ時間に摂ることで、会話を弾ませて楽しい雰囲気の中で食事するようにしているが、時折、介助のために食事を一緒にできないこともある。入居者の好みに合わせて、代替食が用意されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者毎に入浴予定はあるものの、汚れてしまった場合等は随時入浴できるようにしている。個浴にて対応し、時間にもゆとりを持って入浴を十分に楽しめるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご家族からこれまでの生活歴や習慣などを聴取し、入居者個々の力や楽しみを生活の中に取り入れている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物などで、週3回程度の外出をしている。重度の方でも外出できるように、職員の体制を整えて対応している。外出時、季節感に配慮した行き先の選定や会話を持つように工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠することなく、自由な暮らしを支援している。また、職員は閉鎖的な生活の弊害を理解し学習している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防関係者立合いのもとで防災訓練を行い、器具の点検や使用方法についての確認も怠らず行われている。緊急連絡体制の整備もされ、職員は手順を熟知している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立については、隣接する老人ホームの管理栄養士に相談し助言をもらいながら、栄養バランスや量を決めている。食事摂取量や水分摂取量についても確認をしており、栄養状態低下等が見られる場合は、医師と連携して対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにも、部分的に一人で過ごせる空間を工夫して作り、複数で談笑できる場所もある。ホームの壁には、季節感のある装飾がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはこれまで使用していた物を持ち込み、写真や自作の作品等が飾りつけられ、それぞれの個性が見られる部屋づくりがなされている。		